

マサバ・マイワシ・サンマの漁期・漁場の変化

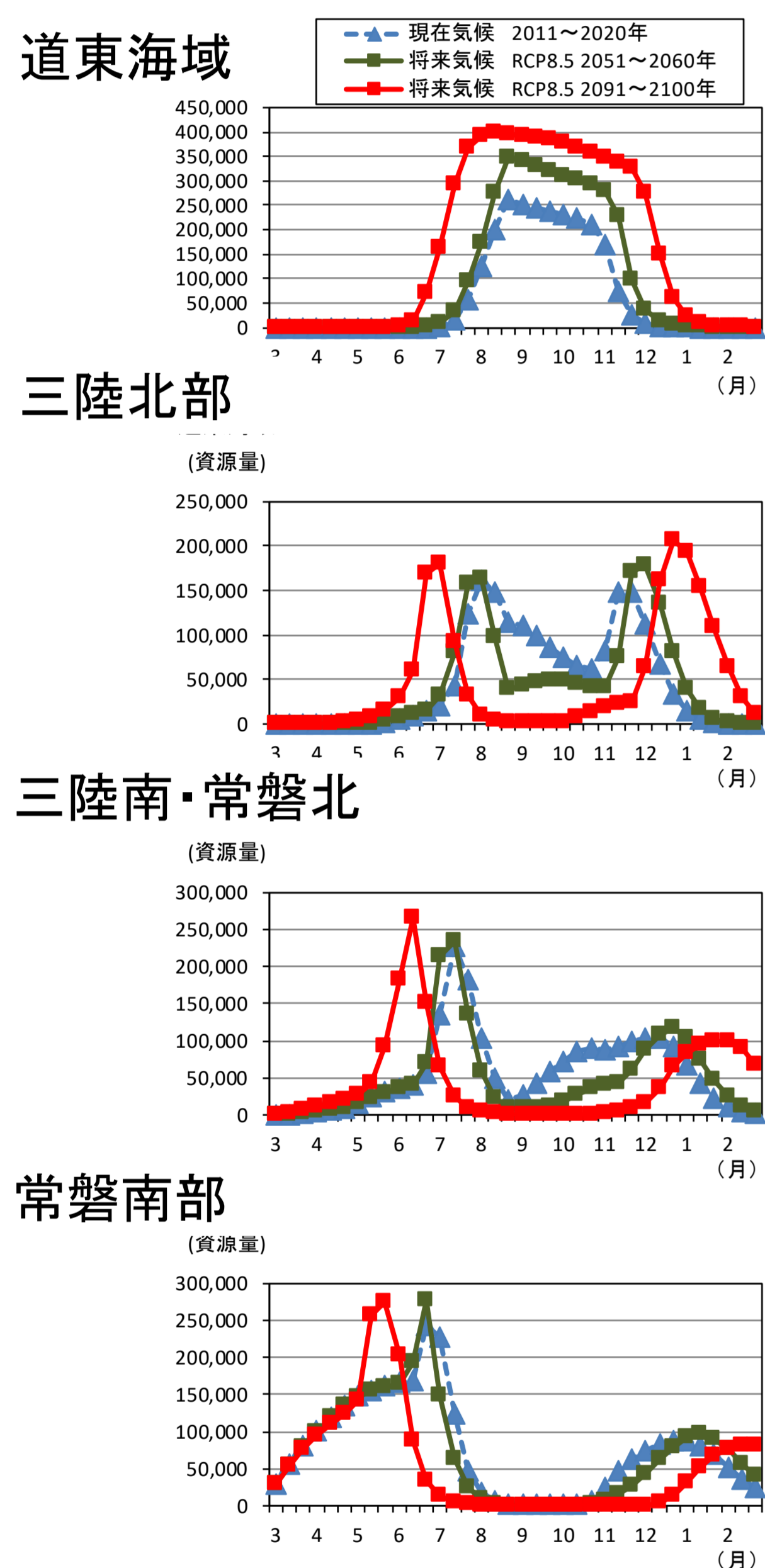
一般社団法人漁業情報サービスセンター



マサバ・マイワシ:北上時期は半月～1.5カ月旬程度早くなり、南下が半月～2カ月程度遅くなることになりました。また、北へ移動する魚が増えるため、北海道沖における来遊量は増えまると予測されました。

サンマ:生鮮向けとなる体長29cm以上の魚は、2051～2060年では漁場へ多く来遊しますが、2091～2100年ではかなり少なくなると予測されました。

1 千葉県～北海道沖のマサバの場合(RCP8.5)



～北海道沖では～

- 来遊量が多くなります。
- 漁期が長くなります。

～岩手・宮城県沖では～

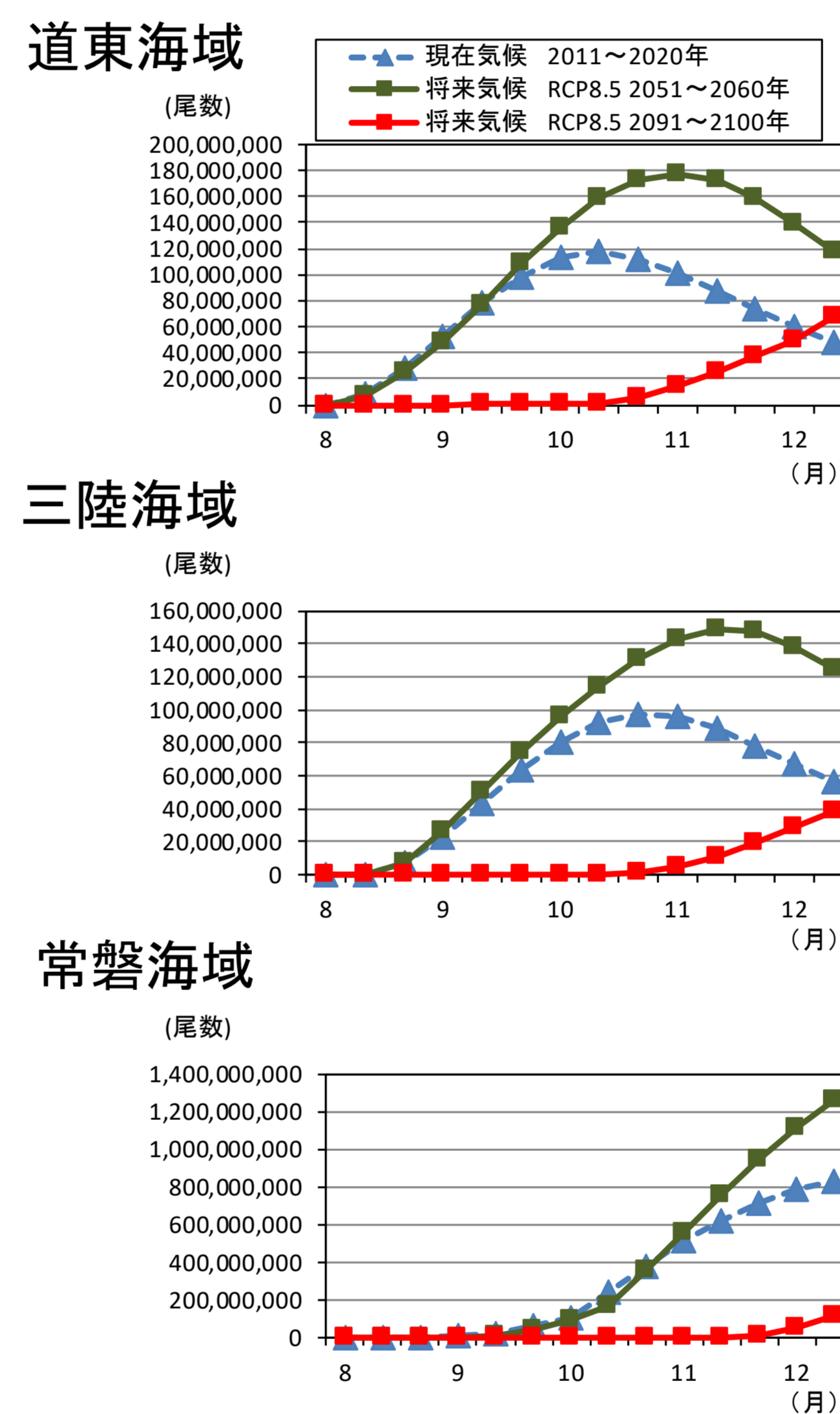
- 北上は早く、南下は遅くなります。
- 夏は来遊量が減少します。

～茨城・千葉県沖では～

- 北上は早く、南下は遅くなります。
- 冬の来遊量は増加します。

2 サンマの場合(RCP8.5)

サンマ体長29cm以上の来遊量



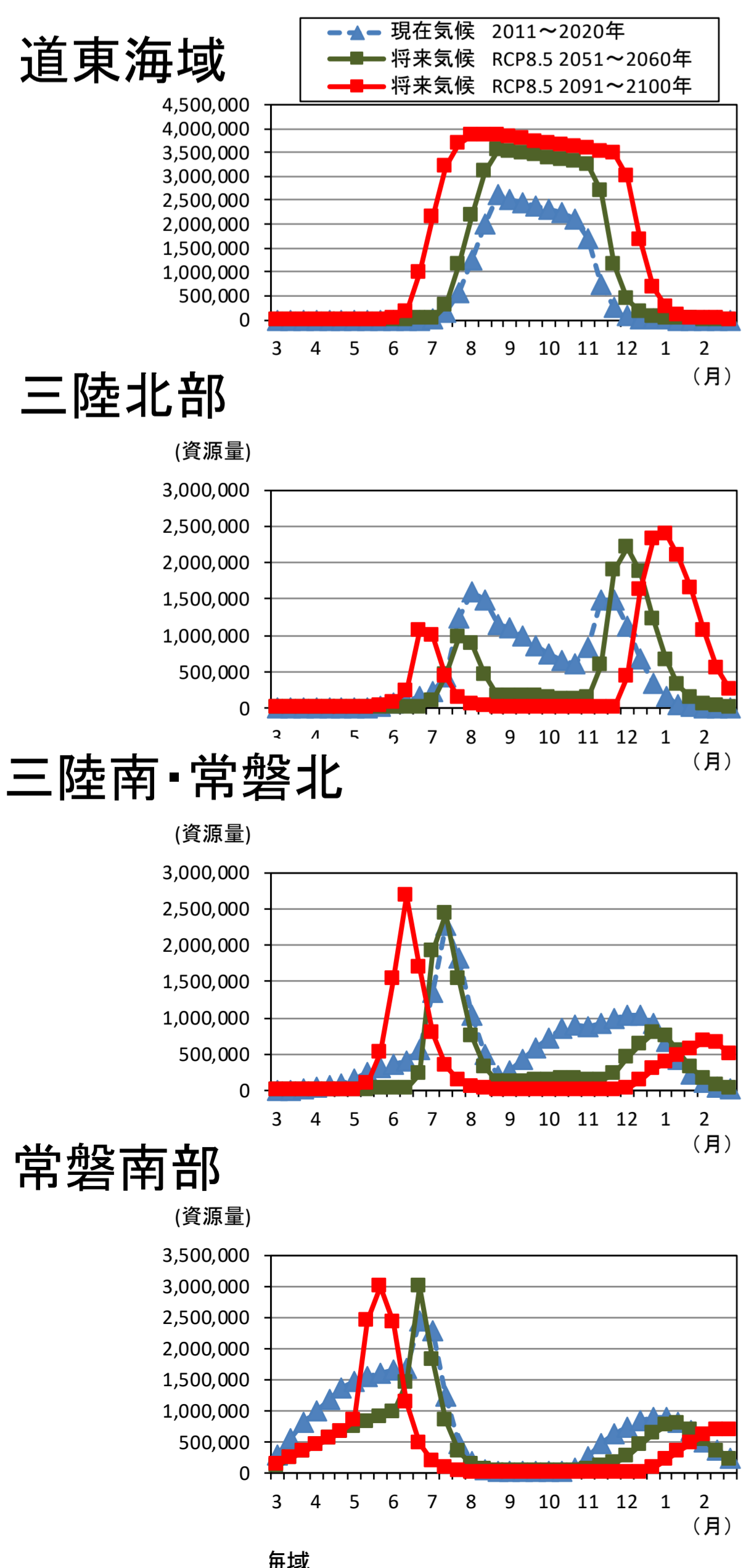
● 2051～2060年

- 来遊量が多くなります。
- 漁獲のピークの時期は遅くなります。

● 2091～2100年

- 来遊量が減少し、来遊時期が遅くなります。
- 北海道沖の漁期は10月後半以降になります。
- 常磐海域の漁期は、12月以降になります。

3 千葉県～北海道のマイワシの場合(RCP8.5)



低～中位水準の場合

～北海道沖では～

- 来遊量が多くなります。
- 6月から12月まで、漁獲できるようになります。

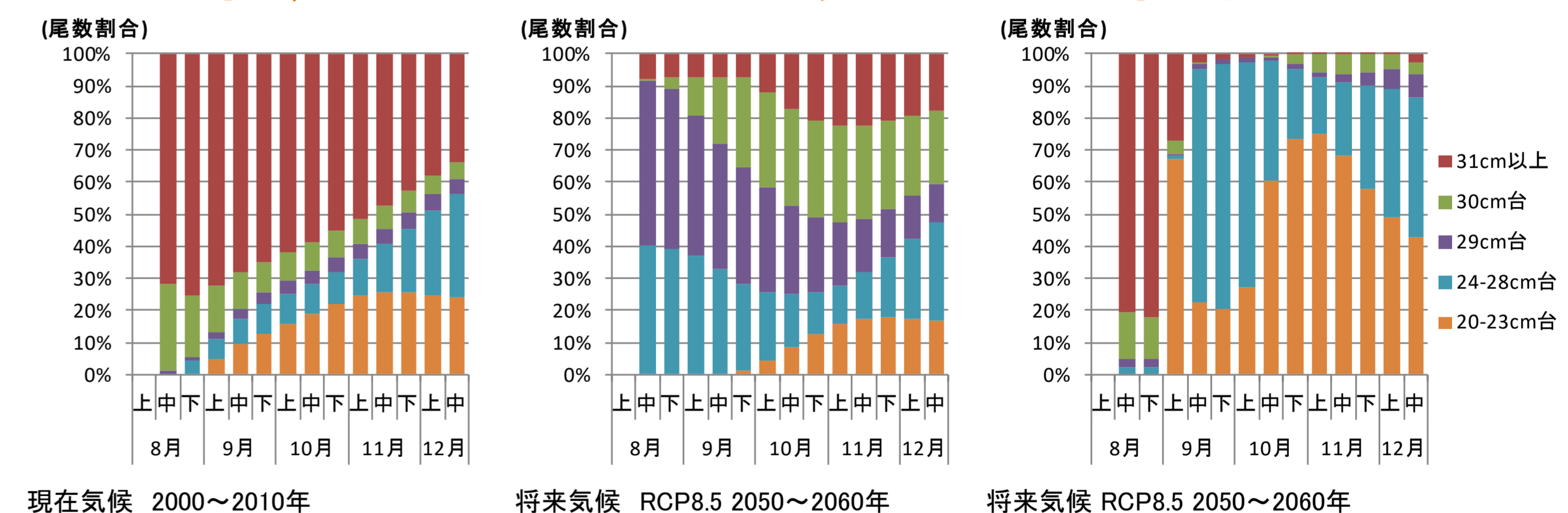
～岩手・宮城県沖では～

- 6月に漁場ができます。
- 南下は遅く、12月～1月に漁場ができます。

～茨城・千葉県沖では～

- 主漁期は1～6月になります。
- 北上は早く、7月の漁獲は期待できなくなります。

サンマ体長20cm以上の尾数割合(道東海域)



- 小型の魚の混じりが多くなります。

● 普及・社会実装への道筋

- 気候変動後に漁期漁場が変化しても、重要な資源として利用できることがわかりました。
- 漁船や陸上設備の投資計画として利用していきます。